

面接のコツ



～はじめに～

面接は何のためにやるのか？経歴を見るため？流暢に話せる力を問うため？…ちょっと違う。

1番の目的は、その人の“**人間性**”を測るため。まずはそこをはき違えないこと。つまり、面接練習は、上手に話せるためにやるのではなく、自分らしさを存分に出せるようにやるもの。このプリントを参考に練習を重ね、自分をアピールできる面接を目指そう。やればやるほどうまくなる！

POINT① 表情を明るく。第一印象は5秒で決まる！

第一印象に関する心理学の法則で、メラビアンの法則というものがある。

それは、第一印象を決める要素が3つあり、印象に影響を与える優先度も異なるというもの。

(1) 言語情報 (話す内容)	(2) 聴覚情報 (声)	(3) 視覚情報 (見た目)
7%	38%	55%

この法則からもわかるように、まずは“見た目”が肝心。以下のことに気をつけよう。

CHECK!

- 身だしなみは整っているか。
- 礼・あいさつをメリハリつけてできているか。動きながら話すのはだらしがない。
- 自然な笑顔を意識できているか。
- 姿勢は悪くないか。立ち姿・座る姿勢を美しく。
- 視線が相手に向いているか。目が合わないのは印象悪い。
- 無意識のクセがあれば、意識してやらない。(貧乏揺すり、しきりに髪を触るなど)

まず確実に直せるところから意識していく。

あとは、両親や友達同士でもいいから、他人に見てもらおうこと。恥ずかしければ、自分で動画を撮るのも効果的。とにかく、自分を客観的にみることが大切だ。

POINT② 「自分の言葉」で受け答えをする！

面接練習をしていると、文章を“丸暗記”し、それを思い出すように喋る人がよくいる。

その人は上手く喋っているつもりかもしれないが、見ている人にはよっぽどバレている。内容を思い出すために視線が上向き、心がこもらない話し方になってしまうのはマイナス。

回答を準備する際には、キーワードをメモする程度にとどめて、後は自分の言葉で語れるようになるろう！

★対策方法：質問と回答をセットでメモする「面接ノート」を作成しよう。

POINT③ 受け答えは、質問に対して短くまとめる！

面接で自分をアピールしたい気持ちが空回りすると、しゃべりすぎてしまうことに注意。一度、3分くらいの回答を聞く側の立場に立ってみて欲しい。経験すればわかると思うが、一方的に話を聞かせるということは、かなりのストレスを相手に与えてしまう。長すぎる文章で内容が全く頭に入っていないのはもったいない。伝えたいことを短く端的に話そう。

CHECK！

- 聞かれたことに対して「1分以内」で答えることを意識しよう！
- 質問されたことに対し、的確に答える。余計なことは話さない。
- 何を聞かれているかをしっかり理解する。自信がなければ、「今の質問は～という意味でよろしいですか？」と聞き返しても良い。

これを意識すると、会話をしているようなリズムが作られていく。面接官もみんなの話をしっかり聞いてくれる。さらに気になることを掘り下げてくれる。普段の自分らしさも出しやすくなるし、印象の良い面接となるはずだよ。

★その他、面接のコツ

- 質問されたら、「はい」と言ってから答え始める。
- 最後に「以上です」というと、終わりがはっきり締まるので良い。
- 難しくてすぐに思いつかない質問には、「少し考える時間をいただいてよろしいですか？」
分からない質問があれば、素直に「すみません、わかりません。」と答える。無言が一番ダメ。

POINT④ 準備すべき頻出質問

最重要質問①「本学の」志望理由

志望理由はほぼ聞かれるといっても過言ではなく、必ず準備すべきもの。特に「なぜその大学なのか」という部分が漏れないように注意しよう。

例えば、「貴学は幅広く英語を学べるので志望しました」という回答。これでは浅い。「なら英語を学べる大学は他にもありますがなぜここに来たのですか??」と突っ込まれて終了となってしまう。せっかく推薦を貰って受けるのであれば、とことん意欲をアピールすべき。「英文学の歴史に関心があり、それを学べる研究室がある」とか、「校内に留学生と交流できる施設があり、実践的な英会話を鍛えることができる」のように、その大学だからこその特色を述べるようにしよう。

最重要質問②高校時代に頑張ったこと

やはりこれも頻出質問。これまで頑張ってきたことを自信をもって言える人は、今後も自分らしく努力できる人という評価に繋がる。「私は〇〇を頑張りました」だけで終わらないよう、「どのような努力をしたのか」「その結果どんな実績が残せたか(どんな力がついたか)」などをまとめて答えられると良い。

ダメな回答例：「私は部活動を頑張りました。練習は大変でしたが、最後までやり切りました。」

いい回答例：「私は部活動を頑張りました。毎朝の朝練を欠かさず行い、次第に大会でも上位入賞できるようになり、成長を感じることが出来ました。部活動を通して、物事を継続する力が身につきました。」

面接対策シート

対策すべき質問例

大学・学部によって質問される内容はさまざま。学校で保管されている過去の入試体験記や、高校の先生が見ることができるベネッセの受験レポートなどを参考にすると、より実戦に近い対策をすることができます。今回は全体的に聞かれることが多いであろう質問例を紹介していきます。

最頻出質問:必ず対策すべき質問例

(1) 志望動機

(2) 他大学も似た学部はあるがなぜこの大学なのか

(3) 入学後に頑張りたいことは何か

(4) 大学卒業後の希望進路・夢

(5) 自己アピール (1分・3分)

(6) 高校時代に努力した事

(7) 長所・短所

以上の質問は最頻出。必ず準備しておきましょう。

頻出質問:対策すべき質問例

(8) どうしてこの学部を選んだか

(9) この学部学科はどのような学問かわかっているか

(10) 入学後、どんな課外活動に参加したいか

(11) 長所が大学生生活に活かすことは

(12) 高校生活での思い出

(13) 高校生活(これまでの人生)で挫折(苦勞)したこと

(14) 得意科目・不得意科目

(15) どのような課外活動・奉仕活動をしてきましたか

(16) オープンキャンパスに参加しての印象

(17) 最近読んだ本

(18) 最近気になるニュース

(19) あなたの座右の銘(好きな言葉)

(20) 趣味・特技

ひとまず、以上のような質問は準備しておくことで安心です。似たような質問は、これらの準備をしておくことで対応しやすくなります。大事なことは、一貫性を持たせること。長所が「継続力」であるならば、高校時代に頑張ったことは何か継続した実績があるといいし、自己PRが「明るさ・元気」であるならば、話し方は明るくないといけない。自分を改めて分析することや、他人に聞くなどして、「自分はこんな人間だ!」という柱となるものをはっきりさせよう。あとは練習あるのみです!頑張ってください!